

2016年度 事業報告

社会福祉法人 いのちの電話



はじめに

(目的・事業の種類)

第一条 この社会福祉法人(以下「法人」という)は、苦悩の多いこの時代に生きるものが、互いによき隣人となって、ひとりひとりの、いのちを大切にしようという思いから生まれた。

「いのちの電話」は、思いを同じくするボランティア相談員と相談者が、主として「電話」等の通信手段を使って対話することにより、互いに生命の貴さを確認し、相談者の尊厳を保持しつつ、健全な社会生活を営むことが出来るよう支援することを目的として、次の社会福祉事業を行う。

これは、2017年1月、社会福祉法改正に伴い、変更登記した社会福祉法人いのちの電話の定款の第一条です。

この一文の多くは、いのちの電話の先輩たちによって練り上げられたもので、私たちの働きの理念・目的、の想いがこもっています。いのちの電話を立ち上げて46年たっても、変わらないものがあります。

研修を受けたとはいえ、どこにでもいる、隣のおじさんやおばさんが、電話の向こう側で、1人悩んでいる人を大切に思つて、こころを込めて話を聴く。これこそが私たちの目指してきたものでした。

経験したこともない大震災から6年を経ても、我が国は、深い悲しみと苦悩から立ち直ったとは、とても思えません。ただ、日本の自殺者数があつた年の前後から、明らかに減り始めています。何が変わったのか、どんな対策が効果を上げたのか、はっきりしたことは私には分かりませんが、何かが変わり始めている気がします。生きることの意味を考える人が少し、増えてきたのかもしれない。

私たちは、いのちの電話です。「いのち」に、「いのちの重み」に向かい合いたいと思います。ただ、座つて、電話を聴くことしかできない私たちですが、そこには、電話を掛けてくださる方の悩みがあり、人生があります。互いの、いのちの重さを感じながら、真剣に、時を共有できたら、と思います。

人と人との関わりが、どんどん薄くなっているように見える現代の社会のなか、一人、ひとりの悩みを聴き続ける私たちの働きは、地味な活動です。しかし、その活動こそ、人が孤立することが多い時代に、本当に必要とされていると、信じています。

これからも、いのちの電話の働きを見守り、ご支援くださいますよう、お願いします。

社会福祉法人いのちの電話
理事長 戸 信次郎

目 次

はじめに	1
社会福祉法人いのちの電話の基本活動方針	2
2016(平成28)年度 社会福祉法人いのちの電話概況	2
2016(平成28)年度 活動内容	3
2016(平成28)年度 相談の実態とその傾向	4
電話相談	4
土曜医療相談	5
フリーダイヤル	5
インターネット相談	6
2016(平成28)年度 決算報告	7
2017(平成29)年度 予算書	7
2017(平成29)年度 事業計画・役員	8
後援会	9

社会福祉法人いのちの電話の基本活動方針

社会福祉法人いのちの電話は、苦悩の多いこの時代にいきるものが互いによき隣人となって、ひとりひとりのいのちを大切にしようという思いから生まれました。

「いのちの電話」は、思いを同じくする多くのボランティア相談員によって「電話」「インターネット」を通じた対話を中心に次に掲げる事項を基本として活動します。

- 一、「いのちの電話」は、すべての人、とくに危機に直面している人、自殺を考えている人、孤独のなかにあつて、助け・慰め・励ましを求めている一人一人に向けて開かれています。
- 一、「いのちの電話」は、相談者に対してよき隣人として開かれた心をもち、親身になって対応することを基本とします。
- 一、「いのちの電話」は、相談の秘密を守ります。
- 一、「いのちの電話」は、相談者と相談員の双方の匿名性を尊重します。
- 一、「いのちの電話」は、相談者の思想、信条、信仰等を尊重します。
- 一、「いのちの電話」による電話相談は、無料です。
- 一、「いのちの電話」は、所定の研修を受けた人たちによって一日24時間体制で相談を受付けます。
- 一、「いのちの電話」は、電話相談以外の相談事業についても上記に述べた諸方針で行います。
- 一、「いのちの電話」は、主として寄付によって自主的に運営されています。

2016(平成28)年度 社会福祉法人いのちの電話概況

2017年3月現在

設 立	1971(昭和46)年10月1日開局	活 動 内 容	電話相談 インターネット相談
法 人 認 可	1973(昭和48)年12月		医療相談 フリーダイヤル(毎月10日)
組 織	理事10名・監事2名・評議員13名	相 談 員 養 成	年1回公募
相 談 員 実 働 数	288名	相 談 員 研 修	継続研修、講座随時
認 定 者 累 計	1,811名	運 営 費	年間経費:約3,000万円
受 信 件 数	25,443件(2016年1月~12月)	機 関 紙	広報誌「いのちの電話 東京」
	男 11,244件 女 14,199件	関 連 団 体	一般社団法人 日本いのちの電話連盟
総 受 信 件 数	開局以来累計:1,286,042件		日本自殺予防学会
相 談 時 間	24時間(年中無休)		

2016(平成28)年度 活動内容

I 実施した研修

〈電話相談研修〉

1. 養成研修(18ヶ月)
 - 50期生(1年目)第I期、第II期
2. 継続研修(グループ研修2年間単位の1年目)
 - 21のグループが、情報交換と支え合いを目的に、会話記録等をもとにしたグループスーパービジョンを行う。
3. 全体研修
 - 「いのちの電話の聴くということ。ー電話相談での関わり、支援とは」
'16年9/24(土) 講師:逸見 敏郎氏(立教大学教授・いのちの電話研修委員) 参加者数:27名
 - 「依存の心理」'16年11/22(火) 講師:森野 嘉郎氏(特定営利法人東京タルク理事長) 参加者数:22名
 - 「実際の相談からみた掛け手の生活・環境・状況」'16年12/17(土) 講師:リーダー会 参加者数:22名
 - 「今、いのちの電話の役割と機能」'17年3/13(月) 講師:林 義子氏(援助修道会・いのちの電話理事) 参加者数:24名
4. フリーダイヤル研修
 - 「発達障害への理解を深める」'16年7/30(土) 講師:岩田 淳子氏(成蹊大学教授・臨床心理士) 参加者数:42名
 - 「ターミナルケア」'17年2/18(土) 講師:矢永 由里子氏(慶応義塾大学医学部感染制御センター講師・いのちの電話研修副委員長) 参加者数:22名
5. 48期・47期フォローアップ研修
 - 講師:樋田 大二郎氏(青山学院大学教授・研修委員) 第1回 '16年11/5(土) 参加者数:15名 第2回 '16年11/26(土) 参加者数:17名
6. 49期ミニフォローアップ研修 講師:リーダー会 '16年7/2(土) 参加者11名
7. スキルアップをはかるための個人スーパービジョン
 - 講師:飯島 睦子氏(元研修委員長) 岩田 淳子氏(成蹊大学教授・臨床心理士) 逸見 敏郎氏(立教大学教授・臨床心理士) 矢永 由里子氏(慶応義塾大学医学部感染制御センター講師・臨床心理士) 参加者数:44名
8. 特別研修(10期)2年次課程 インターンコース(2016年4月~2018年3月)
9. インターネット相談研修
 - ネット相談員継続研修 第1回講師:横田 和子氏(愛媛センタースーパーバイザー)「発達障害」9/6 参加者数:3名
第2回講師:松尾 公孝氏(福岡センタースーパーバイザー)「精神疾患が疑われる相談」について 1/21 参加者数:9名
10. Tグループファシリテーター養成研修(ファシリテータートレーニング)
 - 講師:樋田 大二郎氏(青山学院大学教授・研修委員)杉山 郁子氏(名古屋市立大学・南山大学・看護専門学校等非常勤講師)'16年8/19、8/20(土、日)参加者数:12名

II 活動

1. 役員会
 - 理事会 第273回~第279回(7回) '16年 4/27、7/11、10/24、12/12、'17年 1/23、2/27、3/27
 - 評議員会 第126回~第128回(3回) '16年 4/27、11/14、'17年 3/27
 - 評議員会選定委員会 第1回 3/3
2. 研修委員会
 - 委員会の開催(6回) '16年 4/5、6/6、9/7、11/9、'17年 2/8、3/22
 - リーダー会 定例研修会、宿泊研修、継続グループ運営、相談員のケア、スーパービジョンの研修と実施 '16年 5/28、7/29、9/27、11/29、'17年 1/28、1/29、3/29
3. 運営協議会
 - 委員会の開催 第107回~第111回(5回) '16年 5/14、7/9、9/10、11/12、'17年 1/14
4. ボランティア委員会
 - 各継続グループから委員を選出し、隔月に委員会を開催(5回) '16年 5/14、7/9、9/10、11/12、'17年 1/14
 - 相互交流、情報・意見の交換、連絡、行事への参加協力、研修への提案、組織運営への理解と提案等
 - 全体会(毎年3月)の企画・実施
5. バザー委員会
 - 後援会主催バザー('16年度は10/22土) 実施のため、各継続グループから委員を選出 ●後援会に協力して、バザーを企画・実施
6. 広報委員会
 - 年2回、機関紙『いのちの電話 東京』を発行('16年度は155号・156号)
7. 財務委員会
 - 財務(予算・決算・その他) ●委員会の開催 '16年 4/17、10/27、'17年2/26
8. インターネット相談委員会
 - 委員会の開催(4回) '16年 6/11、9/3、12/3、'17年 3/4 ●コーディネーターの会 '16年 4/13、7/13、10/12、'17年 1/11

III その他

1. 相談員(51期生)の募集
 - 応募者 21名 ●51期生 15名
2. 感謝式・全体会('16年 3/12土) 於:富士見町教会
 - 永年勤続感謝:30年(21期) 1名、20年(31期) 16名、10年(41期) 10名、その他5名 ●全体会:出席者:約100名
3. 厚生労働省事業への参加協力(2016年1月~12月)
 - 補助事業「自殺予防フリーダイヤル」に参加 期間:毎月10日(朝8:00~翌朝8:00)専用電話1本 参加者延人数:144名 受信件数:832件
 - 自殺防止対策事業オープンセミナー「生活にとりいれたい認知行動療法の知恵ー認知行動療法による心のスキルアップー」'16年10/15(土) 講師:菊池 俊暁氏(杏林大学医学部精神神経科学教室講師) 場所:富士見町教会 参加者数:約80名
4. 「第34回いのちの電話相談員 全国研修会」奈良大会9/15~9/17 参加者数:19名
5. その他 苦情対応 事務局で対応 相談事業に対する苦情36件 (2016年1~12月)

2016(平成28)年 相談の実態とその傾向

電話相談の統計から

2016年度の電話相談は25,443件(男性11,244件、女性14,199件)であり、男女比は約4対6と女性からの相談が多いこれまでの傾向に変化は見られなかった。自殺傾向は16.3%と前年度よりやや減少した。また相談を利用した年代も40代が最も多く、次に50代、30代がつづき状況は変わらなかった。受診件数の減少については、昨年同様、相談員の実働数の減少と深刻な相談が増えた事が原因と思われる。孤独で苦しい状況を訴える相談も多く寄せられた。
 ＊平均通話時間：30分(男性24分、女性35分)

表1 電話相談 年代別件数

	男性	女性	2016年 合計	2015年 合計
10代	263	90	353	365
20代	1,182	988	2,170	2,173
30代	2,109	2,568	4,677	5,196
40代	2,846	3,923	6,769	7,406
50代	2,266	3,446	5,712	5,883
60代	1,225	1,988	3,213	3,012
70代	314	395	709	909
不明	1,039	801	1,840	2,217
合計	11,244	14,199	25,443	27,161

図1

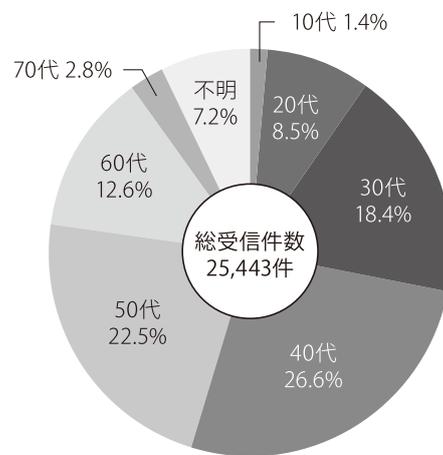
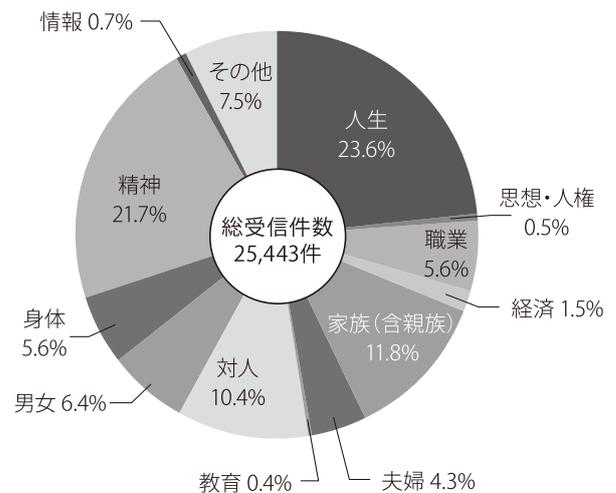


表2 電話相談 問題別件数

	男性	女性	2016年 合計	2015年 合計
人生	2,819	3,188	6,007	6,353
思想・人権	81	42	123	178
職業	758	669	1,427	1,568
経済	191	179	370	463
家族(含親族)	653	2,347	3,000	3,348
夫婦	217	880	1,097	1,255
教育	36	72	108	134
対人	843	1,812	2,655	2,832
男女	755	873	1,628	1,555
身体	649	783	1,432	1,293
精神	2,630	2,901	5,531	5,729
情報	85	93	178	240
その他	1,527	360	1,887	2,213
合計	11,244	14,199	25,443	27,161

図2

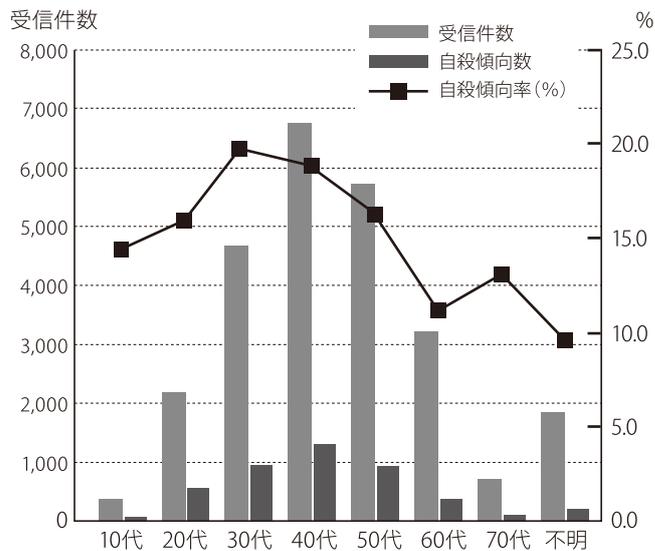


【図3】電話相談 10年間の自殺傾向率



	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年
受信件数	27,462	28,881	29,551	28,987	28,377	27,517	28,276	28,164	27,161	25,443
自殺傾向率 (%)	12.7	11.6	10.9	12.1	10.2	18.8	18.8	16.1	16.9	16.3

【図4】電話相談 年代別受信件数と自殺傾向率



	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	不明
受信件数	353	2,170	4,677	6,769	5,712	3,213	709	1,840
自殺傾向数	51	345	923	1,282	929	358	93	177
自殺傾向率 (%)	14.4	15.9	19.7	18.9	16.3	11.1	13.1	9.6

土曜医療相談

カトリック医師会、キリスト者医科連盟等の医師により毎週土曜日14時～17時に行われている。昨年度相談件数は364件(男性121名、女性243名)男女比は1:2(男性33%、女性67%)。月毎の平均通話数は約30件である。

科目別では、精神科に関連した相談が半数近くを占め、現に治療中からの相談が多い。他科の領域も受療中の方や回復してかけてくる方が多く、(症状や治療に対する疑問、不安、不満など)疾患・医療そのものの他に、医師との関係性や病を持っているための生きにくさなど、複合的な相談がほとんどである。希死念慮のある方は少ないが、医師が直接電話で対応することで、疑問や不安を解消したり、治療意欲を持ち直すなどの支援につながっている。

【科目別】 2016年1月～12月

	男性	女性	合計
精神科(心療内科)	66	150	216
内科	45	86	131
外科(整形外科)	7	20	27
婦人科・産婦人科	0	16	16
泌尿器科	3	2	5
皮膚科	0	13	13
耳鼻科	0	4	4
歯科	0	2	2
眼科	5	1	6
小児科	0	0	0
性について	0	1	1
エイズ	0	0	0
健康相談	2	1	3
美容整形	0	0	0
その他	7	16	23
合計	135	312	447

*複数回答あり

【月別相談件数】 2016年1月～12月

	男性	女性	合計
1月	7	33	40
2月	11	22	33
3月	6	16	22
4月	10	22	32
5月	6	13	19
6月	13	21	34
7月	7	33	40
8月	13	17	30
9月	10	16	26
10月	14	15	29
11月	13	19	32
12月	11	16	27
合計	121	243	364
2015年度			394
2014年度			343

フリーダイヤル

毎月10日、全国のセンターをオンラインでつなぎ、フリーダイヤルで電話を受けている。通常電話より自殺傾向が高いこと、男性からの相談が多いことが特徴である。

	男性	女性	2016年合計
相談件数	447	385	832
自殺志向数	115	126	241
自殺志向率 (%)	25.7	32.7	29.0
平均通話時間(分)	17	22	19

2016年1月～12月

インターネット相談

2016年度より、日本のいのちの電話連盟が運営管理しているインターネット相談は、盛岡、仙台、新潟、埼玉、愛知、奈良、愛媛、福岡との共同により実施した。相談受信件数は、全体で2,734件（男性897件、女性1,837件）であった。前年の3,065件より減少、自殺傾向率は47.4%とほぼ同じ、若年層相談も多々寄せられた。

図5 インターネット相談年代別

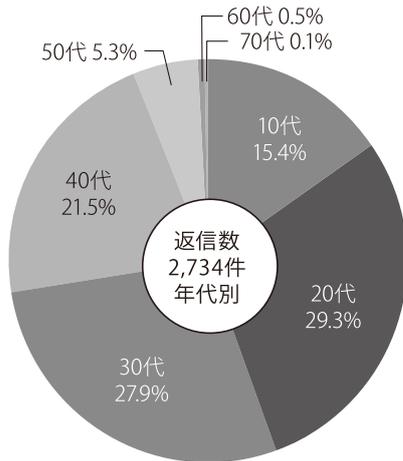


図7 過去5年間の電話相談とネット相談の自殺傾向比較

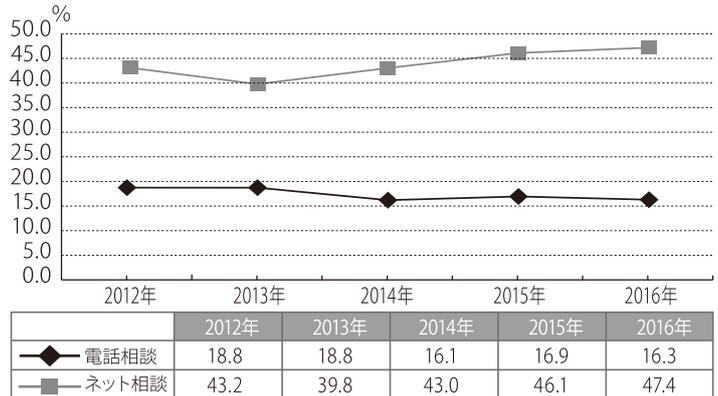


図6 インターネット相談問題別

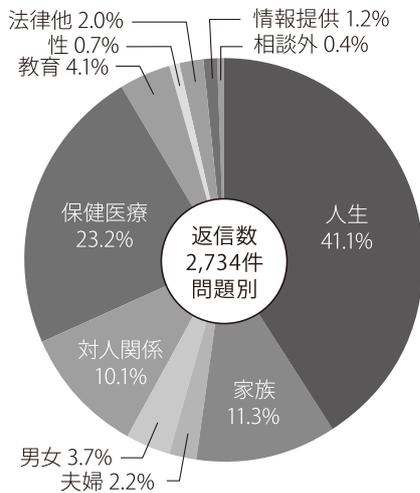
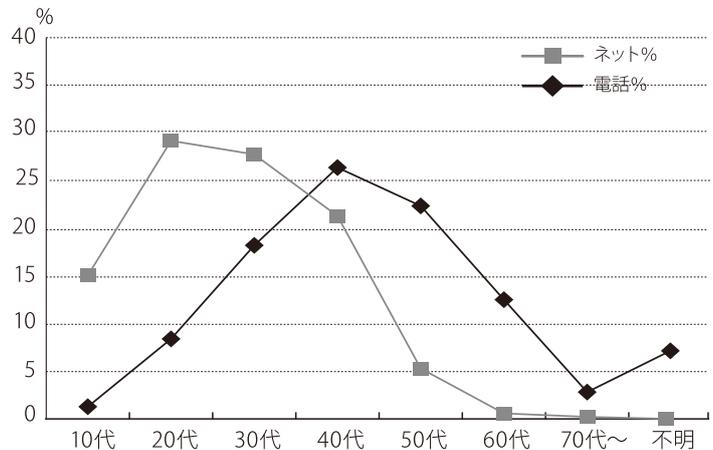


図8 電話相談とネット相談利用者の世代別比較



その他

当法人では厚生労働省「平成28年度自殺防止対策事業国庫補助」を受け、以下のオープンセミナーを行った。

・自殺防止対策事業オープンセミナー

「生活にとりいれたい認知行動療法の知恵—認知行動療法によるこころのスキルアップ—」

日時：10月15日（土） 講師：菊池 俊暁氏（杏林大学医学部精神神経科学教室講師）

参加者：約80名



2016(平成28年度)決算報告

2016年度 経常会計収支決算書 (自2016年4月 至2017年3月)

単位:円

収入の部	
科目	金額
賛助(団体)	11,605,130
賛助(個人)	10,852,678
東京都公的補助金	1,825,000
共同募金・年賀寄付金分配金	344,109
後援会チャリティ寄付	2,000,000
研修受講料	823,500
利息・雑収入等	225,487
協力資金積立金取崩	1,847,880
経常収入総合計	29,523,784

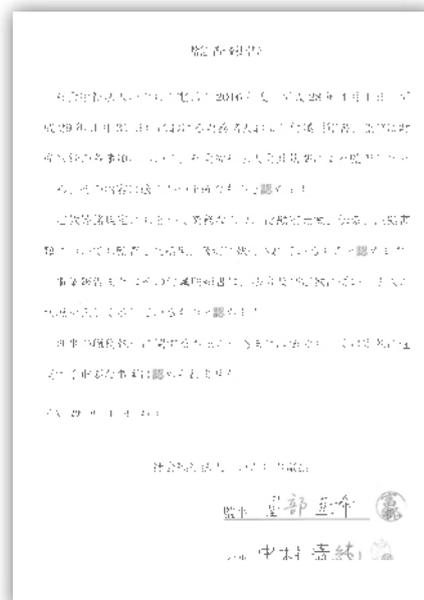
2016年度 貸借対照表 (2017年3月31日現在)

単位:円

借方		貸方	
科目	金額	科目	金額
現金預金	112,096,556	事業未払金	377,970
基本財産特定預金	100,000,000	預り金(公租公課・他)	56,263
建物構築物	1	基本金	100,000,000
電話権利	1,355,020	その他積立金	71,202,299
差入保証金	1,838,518	固定資産基金	21,150,695
		正味財産増減差額 (うち当期活動収支差額)	22,502,868 (4,281,901)
合計	215,290,095	合計	215,290,095

単位:円

支出の部	
科目	金額
施設管理費	6,004,803
相談員研修・ボランティア厚生費	2,264,432
連盟連帯費	2,242,000
通信費・交通費	1,750,314
広報印刷費・調査研究費	526,744
システム運用費	400,356
事務費・人件費等	9,975,980
退職金	1,847,880
什器備品費	226,674
租税公課	2,700
当期収支差額	4,281,901
経常支出総合計	29,523,784



2017(平成29)年度 予算書

2017年度経常会計収支予算書 (自2017年4月 至2018年3月)

収入の部		単位:円
科目	金額	
賛助(団体)	12,000,000	
賛助(個人)	7,000,000	
東京都公的補助金	1,825,000	
後援会チャリティ寄付	2,000,000	
共同募金分配金等	600,000	
研修受講料等	1,560,000	
利息・雑収入等	220,000	
経常収入総合計	25,205,000	

支出の部		単位:円
科目	金額	
施設管理費	6,050,000	
相談員研修・ボランティア厚生費	2,786,200	
連盟連帯費	2,465,000	
通信・交通費	1,900,000	
広報印刷費・調査研究費	350,000	
システム運用費	400,000	
人件費等	8,342,000	
一般管理費等	2,911,800	
経常支出総合計	25,205,000	

2017(平成29)年度 事業計画・役員

I 基本方針

1. 相談事業の安定的な実施
2. 相談体制の充実と強化
3. 組織の整備と運営の適正化
4. 活動への理解と支援拡大に向けての取組
5. 社会・外部組織との積極的な関係作り

II 具体的活動計画

1. 相談事業の安定的な実施
 - 1) 電話相談 ●電話相談の年中無休24時間体制を維持継続する。
 - 2) インターネット相談 ●インターネットによるメール相談を維持継続する。
 - 3) 土曜医療相談 ●協力医師による毎週土曜日の電話医療相談を継続する。担当者の相談検討会を実施する。
2. 相談体制の充実と強化
 - 1) 相談活動の現状の問題点を洗い出し、組織全体での問題意識を共有する。
 - 2) 組織の役割と活動内容の再確認。
変化しつつある社会の中での相談活動の役割を再認識し、いのちの電話の理念に基づいた、相談活動の継続・拡充に向けて議論する。
 - 3) 電話相談員の募集・養成体制の見直し、養成研修の定着を図る。
 - 4) 相談員の意欲の維持・強化を図るため、相談員同士の交流を深める。
 - 5) 電話相談員のケア体制拡充を検討する。
 - 6) 電話相談員の継続研修の見直しを検討する。
 - 7) 電話相談員の誓約事項の遵守と、活動内容の活性化を図るための施策を検討する。
3. 組織運営の整備と運営の適正化
 - 1) 長期計画の実施 ①施設の検討 ②事務局体制の改革 ③社会福祉充実計画の作成
 - 2) 改正社会福祉法による組織の整備、定款細則の見直し
 - 3) 相談員が組織運営に主体的に関われるような開かれた体制作りを目指す。
4. 活動への理解と支援拡大に向けての取組
 - 1) 健全な財政を維持するための募金や相談員募集を推進
 - 2) 後援会主催のチャリティ行事等の実施への協力
 - 3) 広く理解、支援を得るために、講演会や説明会などの積極的な広報活動に取り組む
・広報誌(事業報告、寄付感謝報告を含む)の年2回発行
5. 社会・外部組織との積極的な関係作り
 - 1) 各種の相談ネットワークとの関係づくり、紹介先の再検討
自殺予防支援ネットワーク(東京都主催)との連携協力
 - 2) 日本いのちの電話連盟及び、他のセンター等との連携、協力
2017年度厚生労働省補助事業自殺防止対策事業参加
●毎月10日 8:00～翌日8:00に実施されるフリーダイヤルへの参加 ●第42回日本自殺予防シンポジウムへの参加

役員名簿

2017年6月9日

任期(理事・監事・顧問) 2017年6月9日～2019年定時評議員会終結時		任期(評議員) 2017年4月1日～2021年定時評議員会終結時	
理事 計10名		評議員 計13名	
植村 みどり	社会福祉法人いのちの電話事務局長	石島 武一	社会福祉法人聖ヨハネ会桜町病院名誉院長、 日本カトリック医師会名誉会長、医療相談
大瀧 京子	いのちの電話ボランティア	岡村 五十男	いのちの電話後援会副会長
大西 連	認定NPO法人自立生活サポートセンター・もやい 理事長	神田 佳和	いのちの電話ボランティア
倉本 英彦	精神科医	北川 逸英	日本ルーテル教団杉並聖真ルーテル教会牧師
佐藤 治隆	弁護士	清水 和良	社会福祉法人荒川区社会福祉協議会
穴戸 信次郎	理事長、いのちの電話ボランティア、 日本キリスト教団麻布南部坂教会員	高瀬 幸子	産婦人科医師、順天堂大学・東京女子大学非常勤 講師、医療相談
末松 涉	末松TAコミュニティ研究所所長、臨床心理士、 いのちの電話研修委員長	谷口 尋子	社会福祉法人埼玉いのちの電話理事
高村 治子	アジア婦人友好会会長、一般社団法人母子健康 手帳普及協会顧問、いのちの電話後援会会長	樋田 大二郎	青山学院大学教育人間科学部教授
林 義子	宗教法人カトリック煉獄援助修道会	藤盛 勇紀	日本基督教団富士見町教会牧師
壬生 浩介	いのちの電話ボランティア	望月 和子	いのちの電話ボランティア
		矢田部 千佳子	いのちの電話ボランティア
		矢永 由里子	慶應義塾大学医学部感染制御センター特任講師
		山崎 隆	いのちの電話ボランティア
監事 計2名			
富部 直希	税理士		
中村 清純	水町保険診療所医師		
顧問:	朝居 健(税理士)、田村 毅(精神科医)、福山 清蔵(立教大学名誉教授)		

50音順敬称略

後援会

いのちの電話後援会は、社会福祉法人いのちの電話の財政基盤を支え、支援の輪を広げるために、また相談員をはじめとする会員相互の親睦を図ることを目的として組織されています。

寄付金募集の協力、広報活動、財政支援事業(チャリティバザー、映画会、コンサート、落語会など)の実施、センター内での相談員の便宜を図るために食料品や関連図書、古本販売、また書き損じはがき、未使用切手の収集を行っています。

2016年度 チャリティ事業報告

- 4月16日(土)ノンフィクション作家・柳田邦男「講演会」(銀座プロッサム)
柳田氏は、危機に際してもなお前向きに生きている方の実例をあげ、心の混沌状態に言葉が果たす役割、すなわち「語ること、表現すること」の意味とそれを傾聴することによってケアする大切さを語られました。参加者は、傾聴することの意味を改めて見つめ直し、柳田氏から大きな励ましをもらったのではないのでしょうか。
- 10月22日(土)バザー(東京ルーテルセンター)
毎年、東京ルーテルセンターのご協力をいただき、1階と2階を主会場にバザーを行っています。バザーは企業からの寄贈品、および相談員からの献品を販売して収益をあげるとともに、会員相互や近隣の皆様との親睦の場となっています。



2016年度 活動実績

- 講演会収益: 約64万円
- バザー収益: 約110万円
- その他物品の販売

2016年度 寄付実績

社会福祉法人いのちの電話へ200万円寄付

2017年度 チャリティ計画

- 10月21日(土)「バザー」10:30~13:30
場所:(東京ルーテルセンター)他

所在地:社会福祉法人いのちの電話内

後援会理事

任期 2016年4月1日から2018年3月31日

2017年4月1日

理事
計15名

高村 治子
田部 誠
岡村 五十男
浅見 正博

植村 みどり
岡内 泰子
佐々木 撰三
三崎 由美子

渡邊 富子
上村 明子
小澤 格
神田 佳和

舘 裕子
徳川 信子
山田 忍

監事
計2名

新井 英明
正野 建樹

ご支援ください

いのちの電話は、相談員の無償の奉仕で支えられていますが、研修費、広報、事務費、借室料など年間約3,000万円の運営費が必要です。その運営費の大部分が皆様からの尊いご寄付に頼っています。

ご寄付は個人、法人ともに税制上に優遇措置があります。

皆様からのご支援をどうぞ宜しくお願いいたします。

寄付の
送金先

【郵便振替】 00140-3-162972 社会福祉法人 いのちの電話

三菱東京UFJ銀行 神保町支店 普通 1084827

社会福祉法人 いのちの電話



電話相談

▶ 03-3264-4343



インターネット
相談

▶ <https://www.inochinodenwa-net.jp/>



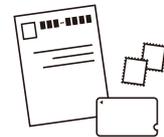
フリーダイヤル

▶ 0120-783-556

「自殺予防いのちの電話」毎月10日

●未使用ハガキ・未使用切手を送ってください

書き損じハガキや年賀状・暑中見舞いなど、使い道がなくなって家で眠っているハガキや未使用切手はありませんか。私たちの活動に大きな助けとなります。よろしくご協力お願い致します。



社会福祉法人 いのちの電話
2016年度事業報告

[発行日] 2017年6月
[発行者] 穴戸 信次郎

[事務局] 〒102-0071
飯田橋郵便局留

[TEL] 03-3263-5794 [FAX] 03-3264-4949
[HP] <http://www.indt.jp/>